

パフォーマンステスト「生き物を守ろう」（第8時）

測る力	話すこと〔発表〕＋〔やり取り〕：守りたい生き物とそのすみか、できることを伝え、先生の質問に応じられるか（知識・技能／思考・判断・表現）
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で（待機イス1つ）。30秒の説明＋先生からの質問1～2つ。グループのポスターを持って来てよい（手元がない子は活動シート2の台本でよい）。
ことばの条件	黒板の「4文の型」（We like / They live in / ~ is a big problem. / We can）は掲示したままでよい。絵カードやポスターを見ながらでもよい（見ないで言えたかは評価しない）。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか（これが崩壊しない鍵）

グループ	やること	用意する物
A（テスト中の班）	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	ポスターまたは活動シート2
B	いきものペアさがし（早見表をふせて・小声で）	絵カード（班用）・活動シート1
C	ポスターの「できること」を1つ書きたして清書（ろうか掲示用）	活動シート2・ポスター
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く（書けたら席でBと同じことをする）	振り返りカード（学校のもの）

1班終わるごと（9～10分）に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる（テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ）。1班8～9人・約1分×35人で35～40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと（待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ）。終わった子は、聞かれたことを話さない――後の子が思い出しテストになる。声が出にくい子は、ポスターを机に置いたまま先生の質問（すみか→こまっている→できること）に1つずつ答える形でよい（順番を先生が作るので知技はbまで、思判表は同じ基準で見る）。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

1 Hello! How are you?

（あいさつ・緊張ほぐし。ここは評価しない）

2 Nice! Please show me your poster.

（ポスターを指して。ここで児童の説明3～4文＝We like / They live in / ～ is a big problem. / We can）

3 Where do they live?

（すみかの確かめ。出にくければ In the sea? Or in the forest? と2択に落とす）

4 Why?

（ポスターの絵を指して。～ is a big problem. が返れば十分。答えられなくても減点しない）

5 What can we do?

（We can を1つ。1語＋ジェスチャーでも十分。そのあと3秒だまって待つ＝質問が返れば思判表a）

6 Great idea! Thank you. See you!

（お別れまでがテスト）

評価しないこと 生き物の知識の正しさは評価しない（すみかを取りちがえても減点しない。英語で伝えようとしたかを見る）。家庭での取り組みは評価に入れない——家の事情に直結する。発音の正確さ・声の大きさは評価しない。見るのは「伝えようとする工夫」（ポスターを指す・ジェスチャー・言い直す）。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	ポスターを指し示しながら、We like / They live in / ~ is a big problem. / We can を使って、生き物・すみか・こまっていること・できることをまとまりのある順序で伝えられる	支えの質問を受けながら、すみかかできることを1〜2文で伝えられる	カードを指しながら単語（sea! / eco bag!）で伝えられる→型の掲示を一緒に指さして1文だけ再挑戦させる
思考・判断・表現	守りたい生き物に合う語句を選んで伝え、Where do they live? / Why? などの質問に内容の合う答えを返すとともに、話が止まった場面では先生に自分から What animal do you like? とたずね返して、やり取りを終わらせずに続けられる	質問に合った答えを返し、伝えたい内容に合う語句を選んで伝えられる	質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、すみかカード4枚を見せて選ばせる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	ポスターづくりやセッションで、相手に伝わる言い方を自分で選び直し、見学先では絵や話の流れを手がかりに聞き取って、自分から質問を重ねようとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「どのグループの『できること』をやりたい？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】守りたい生き物について、They live in と We can を正しく使い、すみかからわたしたちにできることまでを順に、聞き手に伝えるように説明することができました。

【知技・b】いきものペアさがしてカードをめくるたびに Where do ~ live? をくり返し、すみか早見表を手がかりに They live in the sea. と生き物ごとに言い分けられるようになりました。

【思判表・a】ポスターの絵のどこを指すか、どの順に話すかを見学の友だちに合わせて組み立て直し、Where do they live? の問い返しにも自分のことばで答えることができました。

【思判表・b】選んだ生き物のすみかとこまっていることがつながるよう語句を選び、いっしょに取り組もうと呼びかける We can をポスターの結びに置いて、伝えたいことを組み立てました。

【態度】海で見たごみの話をきっかけに、教室でできることを自分で選んで We can recycle. と英語で言い表すなど、Small Talkでも進んで伝えようとする姿が見られました。

【態度】ポスターセッションでは説明係と見学係のどちらも引き受け、見学先では What can we do? とたずねて相手の考えを聞き取ろうとしました。

【はげまし型】ポスターの4文を早見表で確かめながら一つずつ書き上げました。説明のときは絵を指し示す方法を自分で見つけ、They live in のすみかの1文を落ち着いて伝えられるようになってきています。

【接続型】理科で学んだ生き物と環境のことを、英語の短い文にして友だちに提案することができました。教科をまたいで考えたことを英語で言い表す力は、中学校の学習でも大きな支えになります。

【発展・★3】ポスターセッションの見学係では、知らないことばが出てきても絵と話の流れから見当をつけ、その生き物のこまっていることと、そのわけまで受け取っていました。

書き方の型 ①活動名（具体）・②できるようになったこと（評価規準のことば）・③子どもの姿（1つだけ）の3点で書く。順番は入れ替えてよく、どれも同じ文型に見えないよう書き出しを変えてある。家庭での環境の取り組み（買い物のしかた・持ち物）には触れない（家庭の状況に直結するため）。書くのは「伝え方」の成長だけ。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。